

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十八話

「交通の要所」北海道官設滑若駅通所と高江駅

(要約文)

○北海道官設滑若駅通所について

新冠では、江戸時代に判官館の裏側に新冠会所という建物があり、アイヌ民族との交易や漁業、馬を配備して来訪者の交通の便を図っていました。明治時代になると、この新冠会所は「新冠駅通所」と名称を改め、宿泊や交通のための馬の提供などを取り扱っていました。

一方、新冠の奥地は明治時代からその大部分が御料牧場の用地となっていた関係上、人の居住が少なかつたことにより、海岸にあったような駅通所は設置されていませんでした。昭和四年、北海道庁の駅通職員は新冠への視察の折り、サラブレッドに乗馬して新冠川を幾度も渡りながら困難をおかして奥地に行きました。そのため、この奥地に駅通が必要であることを身をもって痛感したことから、滑若（現若園付近）に北海道官設の駅通所が設置されることとなりました。駅通所での業務は鉄道とは関係なく、郵便物の配達、山道を行く馬の飼育、旅人の宿泊対応があります。北海道の駅通制が廃止となる昭和十四年まで業務を行っていたということです。

○高江駅について

鉄道の日高本線は、苦小牧軽便鉄道として、大正二年における苦小牧〜佐留太（現富川）間の開通にはじまります。新冠では、日高拓殖鉄道によって大正十五年に静内までが開通したことから、節婦駅、高江駅（後の新冠駅）が設置され、営業が開始されました。以来、一般乗客による移動だけではなく、木材や農作物の運搬にも利用され、利便性が図られました。昭和二年、苦小牧軽便鉄道と日高拓殖鉄道がともに国鉄へと買収され、鉄道の経営を移行しています。昭和二十三年には、駅名を新冠駅と改めましたが、最初に高江駅と呼ばれていたのは、現市街地が当時高江という地名であったからです。

大正十五年に新冠で汽笛を鳴らした蒸気機関車（SL）は、昭和四十九年のディーゼルカー全面運行によって姿を消してしまいます。現在の自動車普及によるスピード化時代では、決して見ることでできないのどかな風景でした。



昭和14年頃の高江駅
(後の新冠駅)

有効な119番通報するための3つのポイント

- ① 固定電話（IP電話含む）から優先的に通報してください。
～携帯電話は静内 or 富川消防署へ接続後、新冠消防へ繋がります
- ② 消防車や救急車が向かう住所を慌てずに落ち着いて教えてください。
- ③ 通報が終わっても消防からかけ直す場合があるので、消防隊や救急隊が到着するまでは他の電話は控えてください。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
8月	0件（1件）	24件（30件）	
3年1～8月	4件（1件）	205件（169件）	
交通事故発生状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
8月	2件（0件）	0人（0人）	2人（0人）
3年1～8月	6件（1件）	1人（0人）	5人（1人）

人のうごき

(8月末現在)

人口	5,280人	(前月比 - 5人)
男	2,582人	(前月比 - 5人)
女	2,698人	(前月比 ± 0人)
世帯	2,763世帯	(前月比 + 2世帯)